

C023

古代・中世の日本の全地震史料の 校訂・電子化について

○石橋克彦(神戸大/都市安全)・小山真人(静岡大/教育)・佐竹健治(産総研/活断層)・都司嘉宣(東大/震研)・早川由紀夫(群馬大/教育)・榎原雅治(東大/史料)・笹本正治(信州大/人文)・高橋昌明(神戸大/文)・田良島哲(東博/情報)・藤田明良(天理大/国際)・矢田俊文(新潟大/人文)・安永尚志・原正一郎(国文研/研究情報)

Recension and digitization of all historical earthquake documents in Japan during ancient and medieval periods

Katsuhiko ISHIBASHI (Kobe U.), Masato KOYAMA (Shizuoka U.), Kenji SATAKE (AIST), Yoshinobu TSUJI (U. Tokyo), Yukio HAYAKAWA (Gunma U.), Masaharu EBARA (U. Tokyo), Shoji SASAMOTO (Shinshu U.), Masaaki TAKAHASHI (Kobe U.), Satoshi TARASHIMA (TNM), Akiyoshi FUJITA (Tenri U.), Toshifumi YATA (Niigata U.), Hisashi YASUNAGA, Shoichiro HARA (NUL)

●『増訂大日本地震史料』(武者, 1941, 1943)・『日本地震史料』(武者, 1951)【以下, 武者史料】, および『新収日本地震史料』(東京大学地震研究所, 1980-1994)が, 日本列島の過去の地震活動と地震災害を研究するための根本データになっていることは周知のとおりである。しかし, 石橋(1987, 1995)などが繰り返し指摘してきたように, これらの地震史料集は, データの信頼性と利用し易さの点で大きな問題を抱えており, 新たなデータベースの作製が望まれていた。すなわち, 既刊地震史料集においては, 玉石混淆の地震史料が素性・性格の吟味なしに総て同列に収載され(史料とは呼べない二次的・三次的書類もある), かつ本文校訂も不完全なために, 信頼性の低い地震記事が混在していて, 誤った結論を導く原因にもなっている。また, 膨大な印刷物だけであるために使い勝手が悪く(検索の困難さなど), 地震学の進歩に応じて繰り返し読み解くような活用を妨げている。我々は, このような状況を抜本的に改善するために, 2003~2006年度の科学研究費補助金(基盤研究(A)(1))によって, 「古代・中世の全地震史料の校訂・電子化と国際標準震度データベース構築に関する研究」(研究代表者, 石橋)を開始した。

●このプロジェクトは, 地震・火山・津波, 古代・中世史, 情報学の専門家が学際共同研究をおこない, 最終的に, (1)古代・中世の全地震史料を吟味・選別・校訂・再編集した信頼性の高い地震史料集, (2)それを電子化して高度の検索機能を付した地震史料フルテキストデータベース, (3)地震・地震災害研究の多様な目的に活用できて世界にも通用する国際標準仕様震度データベース(ヨーロッパを中心に世界的に整備されつつある Intensity Data Point (IDP)の構造を含むもの), の作製を目指している。また, その作業を通じて, 高品質で高度な地震史料データベースを作製する方法論と, 国際標準仕様震度データベースの概念・構築手法を, 一般論として明らかにしようとしている。さらに基本的に, 歴史地震研究が本来, 歴史科学と地震科学の学際領域であり, 文献史学的方法と地震学的方法の融合が必須であることと, 日本列島の歴史地震研究もグローバルな地震研究の一環であることを強く意識している。なお, 対象を古代・中世に限定する理由は, 近世の地震史料はやや異質かつ極度に多量で将来事業的に扱ったほうがよいこと, 地震史料が限定されている古代・中世は, 我々が目指す方法論・手法を開発・確立して具体的成果物として示すのに適当であること, 古代・中世の地震史料と地震像に相対的に問題が多いこと, などによる。武者史料には火山噴火記録も収録されているので, それも対象にしている。現在, まず武者史料をインデックスとして, その内容の校訂・再構成の作業を開始しつつあるので, 本講演ではそれについて報告し, 多方面からご助言をいただきたい。

●地震史料データベースは図のようなものをイメージしており, それに向けた第一段階として, 武者史料に収録されている史料テキストの電子化と, データベース化のためのXML(eXtensible Markup Language)に従ったマークアップをおこなっている。ルビ・返り点・割り注などの処理には, 日本史・国文学分野で蓄積された情報処理技術を活用している。

